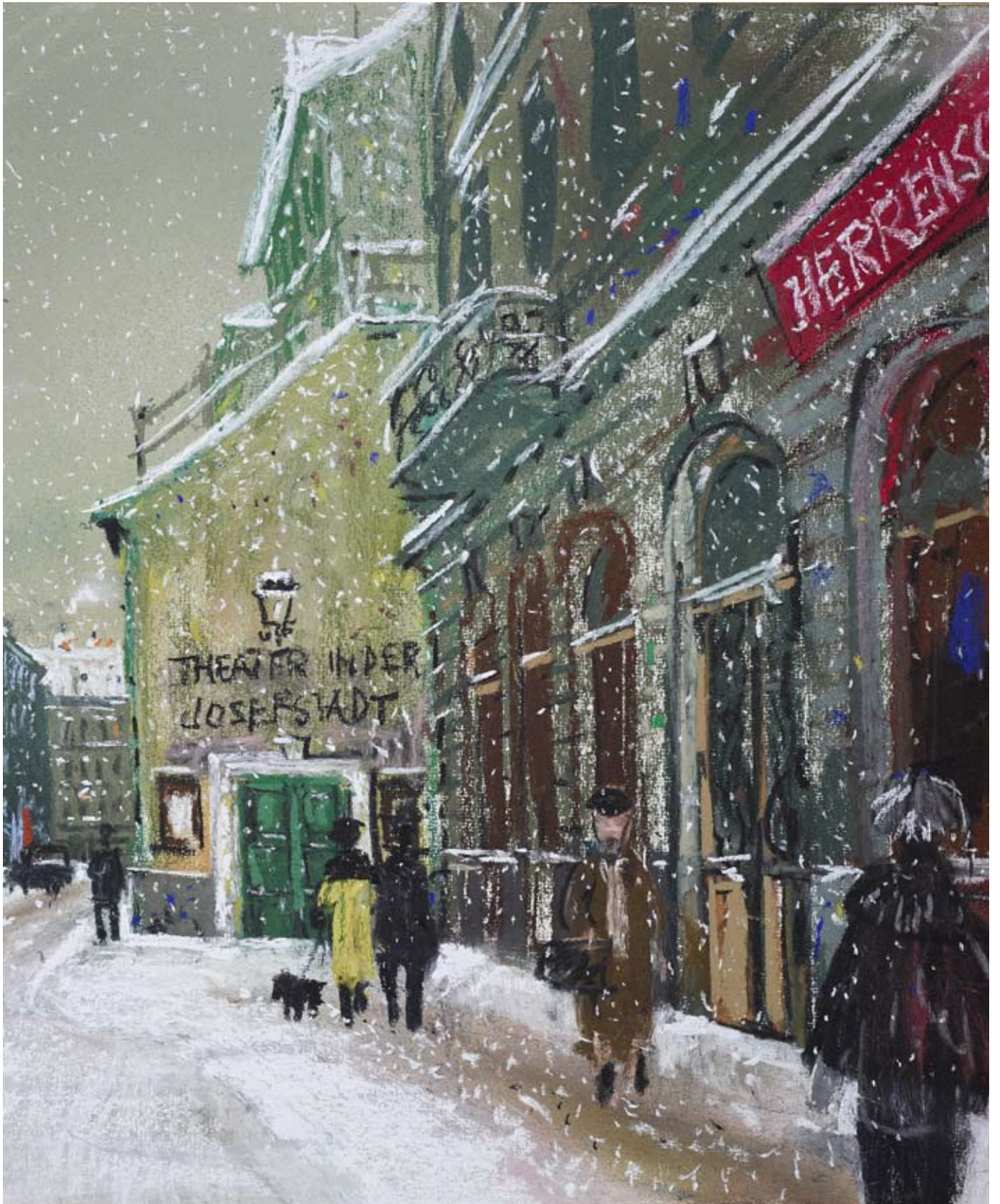


# 月刊ウィーン GEKKAN-WIEN

現地オリジナル取材と編集で  
ウィーンを伝える月刊情報紙  
創刊平成元年 創刊28年目  
創刊1989年 Nr.320

## 2016年2月号



Hans Robert Pippal Wien 8, Theater in der Josefstadt im Winter, um 1975 Pastell auf Ingres Albertina, Wien © Bildrecht, Wien, 2016

ハンス・ロベルト・ピッパル「ウィーン8区 冬のヨーゼフシュタット劇場」部分 1975年頃 アルベルティーナにて3月28日まで展示



# 杉本純の原子力の話 II ウィーンと京都 53



我が国の原子力関係大学院・学部を有する十六大学より構成される国際原子力人材育成大学連合ネットワークにウィーンに本部のあるIAEA（国際原子力機関）にインターンシップとして学生を昨年より派遣している。この取組は、優れた国際感覚、高いコミュニケーション能力、情報発信能力を有する、グローバルな原子力人材の育成を目的とする文部科学省の事業の一環であり、昨年九月十三日～十二月十二日に二回目が実施された。選ばれたのは、京都大学の西川将吾君、大阪大学の嶋田廉君、福井大学の浅原章君の修士年の三名、西川君と浅原君は原子力エネルギー局核燃料サイクル・廃棄物技術部廃棄物技術課、嶋田君は核燃料サイクル核物質課に配属された。西川君はマイカル

氏らからそれぞれ指導を受けた。三名とも国際インターンシップという多文化環境下で貴重な経験を積み、公私にわたり充実した三ヶ月間を過ごした。

西川君は、東

日本大震災の起きた年に入学し、原子力の平和利用として推進されてきた原子力発電が本当

のほとんどの問題意識から、特に廃棄物処分分野が孕んでいる問題点を見出だして解決したいと考え、原子力関係のコースを選択し、核材料工学研究室に所属している。IAEAでは、研究廃止措置データベースの更新を中心として、総会や国際廃止措置ネットワークフォーラム等へ参加して、貴重な情報を入手して討論に参加した。また、最後は二人の日本人と人のイギリス人インターンによる成果報告会を企画・運営した。マイカル氏のインターン報告書には「課題を素早く理解し、効果的に対処できる」とあり、当方も誇らしい気持ちになった。帰国報告会では、視察を広げる、という当初の目標を高いレベルで達成できた」と笑顔で語っていた。

さて、今月のウィーンと京都の対比は、両市の学派について述べてみたい。ウィーン学派とは、ウィーンで繰り広げられた学問・芸術・文化などのグロブ的な活動を指し、学問ではウィーン大学が中心となった。そのうち、哲学ではウィーン大学のシエリックを中心としてウィーン学団とも呼ばれる。心理学ではフロイトによる精神分析学の創設に

関わった人々を指す。経済学はウィーン大学のメンガーを中心としてオーストリア学派とも呼ばれ、ハイエクは同派の代表的存在である。その他、民族学、法律学、美術史、医学、神学等においてウィーン学派が形成され、音楽ではウィーン楽派とも呼ばれ、ハイドゥン、モーツァルト、ベートーヴェンに代表される。



関わった人々を指す。経済学はウィーン大学のメンガーを中心としてオーストリア学派とも呼ばれ、ハイエクは同派の代表的存在である。その他、民族学、法律学、美術史、医学、神学等においてウィーン学派が形成され、音楽ではウィーン楽派とも呼ばれ、ハイドゥン、モーツァルト、ベートーヴェンに代表される。



Wien, Nov. 12, 2006 杉本純

一方、京都学派とは、一般に西田幾多郎と田辺元および彼らに師事した三木清などが形成した哲学の学派のことを指す。京都大学人文科学研究所を中心とした派も京都学派、あるいは哲学の京都学派と区別するため、新・京都学派とも称する。こちらは東洋史学の貝塚茂樹、中国文学の吉川幸次郎、フランス文学の桑原武夫、生態学から人類学にまたがる今西錦司らが著石である。また、国立民族学博物館へ活躍の場を移した梅棹忠夫や国際日本文化研究センターの設立に尽力した梅原猛らもこの学派に含まれる。その他にも様々な学問分野において京都学派と呼ばれるグループが存在する。世界に志学派が多いが、都市名を有する学派は両学派以外にはまれである。

余談であるが、筆者はウィーン学派や京都学派の著作や音楽には学生時代から親しんできた。両学派を紹介できた幸運に感謝しつつ、ウィーン学派の学者や楽聖たちが眼る中央墓地を描いたスケッチを掲載させていただく。

■ 杉本純 京都大学教授  
元原子力機構ウィーン事務所長 ■